

令和 2 年度

運営に関する計画

最終評価

大阪市立天下茶屋中学校

令和 3 年 2 月

大阪市立天下茶屋中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

【学校教育目標】

『人間尊重の教育を一層深化・充実し、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。』

現状と課題

- ・「いじめのない学校づくり」を推進している。いじめの解消率については、毎年 100%を維持する。
- ・校内外における暴力行為発生件数は年々減少傾向にある。今後も、校内外における暴力行為発生件数の減少に努める。
- ・「学校の規則を守るようにしている」生徒は増加傾向にあるが、学校内外での問題行動の発生件数の減少に努める。
- ・不登校生徒数のさらなる減少に努める。
- ・道徳教育を推進し、人の心の痛みを理解し、道徳的行動のとれる生徒の育成に努める。
- ・「全国学力・学習状況調査」において、各調査項目とも平均正答率は全国平均を下回っているが、差は少しづつ縮まっている。また、平均無解答率において、国語、数学において全国よりも低くなっている。
- ・「中学校チャレンジテスト」において、教科の平均点数が大阪府平均を下回っているが、点数の差は縮まっている。また、無回答率は府平均より若干高い。
- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、体力合計点が男女とも全国平均を上回った。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- ・令和 2 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100%にする。
- ・令和 2 年度末の校内調査において、暴力行為を行う加害生徒数を、全校生徒の 2%以下にする。
- ・令和 2 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。
- ・令和 2 年度末の校内調査において、不登校生徒数を、全校生徒の 10%以下にする。
- ・令和 2 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・令和 2 年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率を、対全国比で国語については 0.9 以上、数学 B については、0.85 以上になるようにする。また、無回答率を平成 29 年度より減少させる。
- ・令和 2 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 29 年度より向上させる。また、無回答率を減少させる。
- ・令和 2 年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 29 年度よりさらに向上させる

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- ・令和2年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- ・令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」・「芸術に触れる」行事を推進する。
- ・令和2年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・令和2年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和2年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和2年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・令和2年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- ・令和2年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。
- ・令和2年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、調査項目の平均の記録を、前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- ・学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をとおして学力向上に結びつける。
- ・令和2年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と肯定的に答える生徒の割合を65%以上にする。
- ・令和2年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・部活動の活性化を図り、入部率を60%以上にする。
- ・生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を実施する中、学校全体として様々な教育活動に取り組んだ。また、各学年でも学校教育目標を達成するために子ども達の実態を踏まえ具体策を考えながら教育活動に取り組んだ。学力向上については各教科の指導、また学年でも各テストに向けての対策を考えたりしながら取り組み一定の成果を上げた。道徳については、学年集会や道徳の授業も工夫をしながら子どもの道徳性の向上を図った。体力向上については、保健体育の授業において毎時間その向上に向けて取り組み、保健養護教育からも、生涯にわたり健康に過ごすためのアプローチができた。今後も、全教職員が関わり、教育活動の質を高めていき、社会を力強く生き抜く生徒の育成を目指していきたい。

大阪市立天下茶屋中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標(小・中学校) ・令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。 ・令和2年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 ・令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。 ・令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。	B
学校の年度目標 ・「健やかで豊かな心を育む教育」の充実に向けて、「人権」・「平和」・「国際理解」・「命の大切さ」について考える取組や、「人や自然と触れ合う」、「芸術に触れる」行事を推進する。 ・令和2年度末の校内調査において、「学校生活が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。 ・令和2年度末の校内調査において、「しっかりあいさつをしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 ・令和2年度末の校内調査において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2、道徳心・社会性の育成】 人権を尊重する教育に関わる講話や体験学習を実施する。 指標 人権教育（いじめを含む）・平和教育・性教育について講師を招き、それぞれ1回以上講話や体験学習を実施する。	B
取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】 人や自然と触れ合ったり、伝統文化・芸術を鑑賞する機会を持つ。 指標 芸術鑑賞を1回実施する。また、フィールドワーク、園芸や緑化活動を通じて人や自然と触れ合う。	C
取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】 生徒会が中心となる行事をとおして、生徒同士が互いに支え合う集団を育成する。 指標 小学校児童との交流会（年1回）やボランティア清掃（学期に1回）などを生徒会が企画し、生徒同士が協働することにより、互いに支え合う集団を育成するとともに、生徒一人ひとりの道徳性や社会性を育成する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
・新型コロナウイルス感染症対策を実施する中、子ども達の安全を考慮し、行事の中止や延期、規模の縮小を余儀なくされた。 ・文化発表会や児童見学交流会など、生徒会役員が中心となって、様々な取り組みを行い、個と集団育成を図った。 ・行事は生徒主体で行えるように学級代表や実行委員を中心に取り組んだ。 ・学年ごとに生徒の実態に合わせて教材を選び、道徳の授業を進めた。
次年度への改善点
様々な取り組みを通して、生徒の自律と自立を促し、子どもが安心して成長できる安全な学校作りを目指す。

大阪市立天下茶屋中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>令和2年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 令和2年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。 令和2年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、調査項目の平均の記録を、前年度より向上させる。 	
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館を授業で活用するとともに、毎日放課後開館し、生徒の自主的な利用をとおして学力向上に結びつける。 令和2年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を65%以上にする。 令和2年度末の校内調査における「宿題をきちんと提出した」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。 部活動の活性化を図り、入部率を60%以上にする。 生徒一人ひとりが自己の健康維持について認識を高めるため、保健指導や食育を推進する。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 家庭学習課題を計画的に出し、やりきらせることで学力を向上させる。	B
指標 令和2年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。	B
取組内容②【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 研究授業を含む校内研修を充実させ、教員の指導、学校力を高め、生徒の学力向上に結びつける。 指標 全教員が1回以上研究授業を実施する。校内研修会を年に8回以上実施する。	B
取組内容③【施策5、子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 学校図書館を毎日開館する。学校図書館を授業や放課後学習などで活用し、学力向上に結び付ける。また、不登校生徒の学力保障対策として、学校内適応指導教室としても運用する。 指標 元気アップ活動と連携し、毎日図書館を開館する。国語科を中心として、図書館を活用した授業を推進する。	B
取組内容④【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 保健指導、食育を一層推進し、生涯に渡り健康であるための意識を育てる。 指標 「ほけんだより」「食育つうしん」を毎月発行し、学級活動などで活用する。 生徒が中心となり学校保健委員会を実施する。今年度は、小中合同の開催を目指す。	B
取組内容⑤【施策7、健康や体力を保持増進する力の育成】 新体力テストを全学年で実施し、体力の向上を図る。運動部活動への入部率を高め、体力の向上を図る。 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、全種目とも全国平均を目指す。 運動部活動入部率を平成29年度よりも向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教科において、家庭学習課題を計画的に出す取り組みを推進し、効果を上げている。 ・授業参観ウィークを設定し、相互授業参観を行い、教員の授業力の向上を図った。 ・図書室開館については、学校元気アップ事業と連携し、毎日開館することができた。学年別の図書の貸し出し回数を視覚化し、図書カードも利用して読書を印象付けるようにした。 ・図書だよりも年6回発行した。 ・「保健だより」「食育つうしん」を毎月発行した。 ・ 	
次年度への改善点	
学力の向上に関しては、今後も引き続き、授業規律の向上を基盤として、基礎・基本の徹底に力点を置きながらすすめていきたい。	